

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都町田市木曽西3-18-2
園名	アスク木曽西保育園

1. 活動のテーマ <テーマ>

世界を知ろう
～どんな国旗があるかな？～

<テーマの設定理由>

運動会で万国旗を作成したことで、子どもたちが様々な国に対して興味を持ち始めました。この好機を利用して、英語講師とともに国旗から他の国に(世界に)目を向けられるように救湧く活動をスタートさせたいと想い、このテーマを設定しました。何語を話しているのだろう、どんなものをたべているのだろうと子どもたちの問いを汲み取り、探究活動を進めていきました。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにしました。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにしました。

11月～12月:国の概念について探求をする。文化について探求をする

1月～3月:国旗を構成している色や形について探求し、自分の国旗・クラスの国旗を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・フラッシュカード・・・国旗のカードにして作ったもの
- ・図鑑(世界の料理、世界など)
- ・世界地図
- ・世界地図のパズル
- ・国旗絵本・・・日頃から子ども達が自分で国旗を見たり、気になる国旗の国名を調べるために使用
- ・国旗一覧・・・国旗を見比べて違いに気付いたり感じたりするために使用
- ・くもんの地球儀・・・様々な国の場所や日本との位置関係、国土の形に興味を持ち、調べたり国旗のイメージを膨らませるために使用
- ・国旗の塗り絵・・・国旗に使われている色や形により細かく気付いたり、自分なりに感じた事・考えたものを表現するために使用
- ・色鉛筆、クレヨンなど

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える:国旗という枠組みにとらわれず、日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？と文化に関する問いかけをし、国による違いをみんなで考えました。また、国旗について探究を深め、どんな色や形が使われているかな？自分の国旗やクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな？と問いを重ね、英語を用いて探したり、自分の国旗を発表したりと自分の子どもたちの興味に合わせた問いかけをしました。

探究活動の様子:フラッシュカードを用いて、まずは日本のものと外国のもの(違う国もの)を比べることから楽しみました。これはどこの国のものなのかな？と活動を重ねるごとに子どもたちの興味関心が高まっていき、地球儀を使用して、日本を含め、他の国の位置を確認したときは、国の大きさを含め、地球が丸いことにも興味関心をもっていたことには驚きました。

「国」を調べていくなかで「国旗」にも興味を持ち始め、自分だけのオリジナルの国旗を作る活動をしました。最初は何を書いたらいいのかわからない様子の子どもたちでしたが、小グループにして活動すると、何を書こうか話したり、友だちが書いているもののアイデアをもらったりと友だちと一緒に会話を楽しみながら、自分たちの好きなものを書いて国旗作りに取り組んでいました。出来上がった国旗を英語講師と一緒に並んでみんなに発表する際には、英語講師が INTERVIEW をしたり、絵の様子を簡単な英語で表す(星は star など)ことで、英語講師と一緒に英単語を繰り返す場面も見られました。模造紙を使用して、クラス国旗を作った際も、自分たちの好きなものをダイナミックに描き、ステッカー貼りも楽しんでいました。

国旗に慣れ親しんできた子どもたちは国旗カードや世界地図から、国旗を用いて、その国の言葉の違いについて興味を持ち始めました。先生と一緒に 5 か国ほど選び、その国の挨拶を調べ、みんなで挨拶の練習をしました。最終的には、自分たちで挨拶のジェスチャーを考えるなど、子どもたちオリジナルの遊びが生まれ、楽しんでいました。

ふりかえり(保育士の気づき):

日本という国に住んでいて、他にも違う国が沢山あり、違う言葉を話していたり、違う食べ物を食べたり・・・していること自体を初めて知ることから始まりました。最初のうちは、理解が追い付かない場面もありましたが、活動を進めていくなかで少しずつ理解を深め、興味関心を高めていきました。

保育者が一つ一つの活動において、環境設定を整えることを心がける反面、子どもたちの探究活動の軌道を決めていかないように、細かい設定をしないように気を付けました。

オリジナルの国旗を作成する際に、「なんでも好きなものを書いていい」というお題に対して、何を書いたらいいのか迷う姿がありました。これを描くことが良くてこれを描くことはいけないなど…好きなものに良し悪しはないことを伝えようと嬉しそうに次から次へと描き始め、友だちとも何を描いているのか共有して楽しんでいる姿がありました。なかなか踏み出せないその背中をポンと押してあげたり、こっちにおいでと呼び込んであげたりすることで、子どもたち自身がどんどんと歩み出していくことをこのすくわく活動を通じて大きく感じることができました。



【4 歳児実施分】

問いを考える:「この国ってどういう国なのだろう」

国旗を通して、様々な国があることに興味関心をもち、国の違いをみんなで探究して楽しみました。国旗から国の名前を知り、世界地図(世界地図のパズル)から国の大きさを知り、図鑑や WEB 資料からその国の食べ物や習慣を知るといった探究活動をするなかで、どう日本(私たちの生活)と違っているのか、また、一緒のところはあるかなど、子どもたち自身が感じる問いかけが沢山出てきました。

また、自分自身のオリジナルの国旗を作る際はどんな意味をもたせようか…自分の国旗やクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな?と問いを重ね、英語を用いて探したり、自分の国旗を発表したりと自分の子どもたちの興味に合わせた問いかけをしました。

探究活動の様子: フラッシュカードを用いて、まずは日本のものと外国のもの(違う国もの)を比べることから楽しみました。国旗の模様に興味関心をもち、国旗から国名を覚えていく子どもたち…アメリカの国旗をイメージしながら、アメリカの国旗に色を塗る場面では、友だちと国旗について気付いたことなどを共有しながら、自分の好きな色で塗るなど国旗に親しむことができました。世界地図や地球儀、世界地図のパズルで日本の大きさを知ったときは「小さい!」と衝撃を受けている時の子どもたちの驚いている表情は印象的でした。また、英語講師に国旗の色、形の英語表現を教わりながら一緒に探究活動を深めると、より一層国旗に興味をもちました。国旗から国の特徴などを図鑑で調べても、次から次へとなんでだろう…という問いかけが出てくる子どもたち。わからないことが出てくると、「パソコンで調べてみて」「携帯で調べて」などという声がありました。

英語講師との活動のなかで、みんなが好きなものを問いかけ、それがアメリカのものなのか、日本のものなのかを考えていきました。日本にあるものがアメリカ(外国)から来ているものが多いことに気づき、英語講師に積極的にこれはどうかな?あれはどうかな?と質問している姿があり、活動のなかで、国旗の色や形、食べ物などにまつわる英単語を自然と使用していくことで身に付いていく様子もありました。

「国」を調べていくなかで「国旗」にも興味を持ち始め、自分だけのオリジナルの国旗を作る活動をしました。小グループにして活動すると、何を書こうか話したり、友だちが書いているもののアイデアをもらったりと友だちと一緒に会話を楽しみながら、自分たちの好きなものを書いて国旗作りに取り組んでいました。

ふりかえり(保育士の気づき): 子どもたちとの話し合いのなかで、積極的に発言する子に便乗するように、消極的なタイプの子どもたちも自分の意見を出していたのには驚きました。子どもたちが探究していくなかで、子どもたちの話し合いの最中は、子どもたちだけに進行を任せていくことで、自然と「相手の意見を聞く」「自分の意見を相手に伝える」といった行動が身に付いていくことに気づきました。国旗作りの際も、少人数に分かれて作業をする際、色鉛筆をテーブルの中央に置いてみんなが使いやすいようにしようと声を掛け合うなど、相手(友だち)を思いやる気持ちを育むことが出来ました。「良かれ…」と思って、ついつい「あれしたら?」「これしたら?」と日々のなかで提案しがちになってしまっていますが、子どもたちの自主性に任せて活動を進めていくことこそが、子どもたち自身の成長に大きく繋がるのが改めてわかりました。

また子どもたちの探究活動において、子どもたちが知りたいと思っているもの資料を用意すればするほど、子どもたちの探究心は活性化され、次から次へと問いが生まれ、夢中になって活動している様子があり、ここまで知ればいいだろう…というような見切りを保育者自身がつけることなく、子どもたちのペースに合わせて探究活動をしていく大切さも改めて気づくことができました。



【5 歳児実施分】

問いを考える:「国旗から様々な国を知ろう」

国旗を通して、様々な国があることに興味関心をもち、国旗の意味その国々と日本の違いをみんなで探究して楽しみました。国旗の色や模様の意味を調べ、またそれを英語講師とともに行うことで、色や形の英単語も自然と身に付けていきました。「英語では何て言うの?」という子どもたちの問いかけも沢山ありました。世界地図(世界地図のパズル)から国の大きさを知り、図鑑や WEB 資料からその国の食べ物や習慣を知るという探究活動をするなかで、どう日本(私たちの生活)と違っているのか、また、一緒のところはあるかなど、子どもたち自身が感じる問いかけが沢山出てきました。

また、自分自身のオリジナルの国旗を作る際はどんな意味をもたせようか…自分の国旗やクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな?と問いを重ね、英語を用いて探したり、自分の国旗を発表したりと自分の子どもたちの興味に合わせた問いかけをしました。

探究活動の様子: 国旗で色々な国を見ていくなかで、子どもたちはアメリカの国旗の数に興味関心を示しました。みんなで星の数を数えたり、星の意味を考えてみたり(そして実際の意味を知ったり)となぜだろうねと子どもたち同士で話し合いながら探究している姿がありました。アメリカの国旗の星の数に興味をもったのと同様に、日本の国旗がなぜ赤丸のデザインなのか、何を意味しているのかということにも疑問をもち、みんなで探究することができました。

オリジナルの国旗を作る際には、まずはどんな国旗を作りたいのかみんなで意見を出し合うために、自分のアイデアを描いてみました。好きなものを描くだけではなく、自分の思い出の場面を描く子もいて、その発想力に驚かされました。国旗で色々な国を調べていくなかで、国旗には色々な意味があったことを思い出し、自分の国旗にも意味を持たせるために、グループに分かれ、集中できる環境のなか、それぞれが思いついたことを丁寧に描いていました。国旗ができたらどこに貼りたいか、誰に見せるかなども子どもたち自身で話し合い決めていくことが出来ました。

また、国旗をみんなに紹介する際には、英語講師とともに発表をすることで、英単語も自然と覚えることができ、また、「これは英語でなんていうの?」と子どもたち自身が英語講師に問いかける姿も見られました。

ふりかえり(保育士の気づき): 子どもたちは国旗から食べ物や文化の違いに探究していくかと思いきや、アメリカの国旗の星の数に興味をもち、そこから探究活動が始まったことには驚きました。国旗が何を意味しているのか(何の象徴となっているのか)などを、子どもたちの問いかけを拾って、一緒に図鑑やパソコンで調べて探究活動を重ねることができたのは良かったです。資料が多ければ多いほど、子どもたちのやる気(探究心)を掻き立てることに気づきました。加えて、子どもたちが知らなかったことが、知っていることが重なりあったときの閃いた子どもたちの表情(パツと華やかになる表情)もとても印象的でした。この瞬間の閃きが子どもたちの脳を活性化させ、物事を探求していくことの面白さがわかる瞬間だと感じました。また、活動を通して、大人になったら行ってみたい!食べてみたい!と子どもたちの夢にも繋げることができて良かったです。

国旗の形や色を表す英単語を英語講師に教わり、英単語を覚えようと何度も何度も繰り返し言い、それを見た英語講師が発音を教えてあげるといった活動の循環が自然とでき、子どもたちが探究活動とともに英語と身近に触れ合うことができました。活動をしていくなかで生まれてくる子どもたちからの問いかけを、英語講師とともに活動を重ねていくことで、活動の探究と英語学習が結びつき、一石二鳥の活動を行うことができて良かったです。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都町田市 3-18-2
園名	アスク木曽西保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

～「この音ってなんだろう？」～
生活のなか、絵本のなかにある音ってどんな音なんだろう

<テーマの設定理由>

「この音ってなんだろう？」「この音ってどんなふうに聞こえるのかな？」など、子どもたちが生活の中から出てくる音について問いを生み出してみたり、音と絵本を関連付けて音の探究を深めて探究いったりする活動は音楽や絵本が大好きなアスク木曽西保育園の子どもたちに合っている(子どもたちがわくわくする活動になるに違いない)と感じたため、このテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

11 月から3月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出しました。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにしました。

11月:身の回りの音を探していく

12～1月:絵本の中の音を感じていく、音を探していく

2月～3 月:絵本の中の音を作り出し、絵本の世界を広げていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・アゴゴウツド
- ・ミュージックベル(ハンドベル)
- ・マラカス(フルーツバスケットシェイカー、ベジタブルシェイカー)
- ・トライアングル
- ・タンバリン
- ・絵本「3 匹やぎのガラガラドン」「くれよんのくろくん」など
- ・ピアノ
- ・カスタネット

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：音楽や様々な音を聴いて、どんな風に聞こえるか(悲しい、楽しいなど)を探究していくことから始まり、音から湧き出てくるイメージを持ちながら、自分たちのまわりにある音を探していきます。どこからどんな音が聞こえてくるのか、子どもたちが探究したい気持ちの赴くままに活動を進めていきます。

また、絵本の物語に音楽を付けてみるとどんな世界が広がっていくのでしょうか。子どもたちは絵本の物語のどこに注目をして、どんな音を付けていくのか…子どもたちの想像力を掻き立てながら、音を付けることで広がっていく絵本の世界を体感していきたいと思います。

探究活動の様子：おんがく講師と一緒に、おんがく講師が奏でる音を聴いて、どんなふうに感じるのかを、どんなイメージを持つか…意見を出すことから始めました。音に集中できるように、部屋を少し暗くして寝っ転がった状態になりましたが、そんな非日常の状態でもすぐに順応し、活動に取り組んでいました。横になって自然の音を聞いていると自然と「風の音が聞こえる」「鳥も鳴いているね」などと子どもたち同士で発見したことを教えあっていました。意見を出し合う際にも友だちの意見に耳を傾け、共感する姿も印象的でした。

音をイメージして絵を書いている活動では、2つのグループに分かれて、じっくりと自分自身のペースで活動を進めていけるように環境を整えたことで、一人一人が自分の聞こえた音を思い出しながら思い思いに描き進めることができていました。音楽を聴いてイメージする道路を書いたり、音楽からイメージする食べ物を書いたりして楽しんでいる子どもたちがとても印象に残っています。

室内だけでなく、園庭でも寝っ転がって、まわりの音に耳を澄ましてみることで、動物の鳴き声や乗り物の音など…色々な音が聞こえてくることに子どもたちは少し興奮気味で発見を楽しんでいました。

また、絵本に音を付けてみる探究活動では、「くれよんのくろくん」「3匹のこぶた」と読み慣れている絵本(内容を知っている絵本)ですが、初めて聞く絵本のように食い入るように聞き入っていた子どもたち。自分たちで絵本に音を付ける活動では、おんがく講師や友だちと一緒にどの楽器を使って表現しようか、少人数のグループに分かれて音探しをしたり、また友だちがどんな音を使用するのか意見を出し合ったり…という活動を楽しんでいました。

いつも聞いている音を自分たちで作りだし、世界を広げていく活動に夢中になって楽しんでいました。

ふりかえり(保育士の気づき)：保育室内でも園庭においても「寝っ転がる」という動作(非日常的な動作)に子どもたちはかえって興奮をしてしまい、探究活動に支障が出てしまうのではないかと危惧しましたが、特に興奮することもなく、落ち着いて寝っ転がり、まわりの音に耳を澄ましていました。

保育者が活動の前に「静かにしてみるよ」などと声をかけなくても、「どんな音がするかよく聞いてみようよ」と子どもたちの目線をもって問いかけいくことで、子どもたちは会話することをやめて、一人一人まわりの音に耳を澄まして聞き入っていました。子どもたちの言動を保育者が思い描く軌道に乗せるのではなく、保育者も一緒になって子どもたちと探究活動を楽しむこと(没頭すること)によって、子どもたちの目線に立った声掛けができることが活動を通して、改めて感じることができました。

音を探したり、絵を書いたりする活動の際は、二つのグループに分けて少人数で作業を行うことで、友だちと発見の共有をしながらも、自分のペースで活動を進めていけることができていたのはよかったと思います。



【4 歳児実施分】

問いを考える：音楽や様々な音を聴いて、どんな風に聞こえるか(悲しい、楽しいなど)を探究していくことから始まり、音から湧き出てくるイメージを持ちながら、自分たちのまわりにある音を探していきます。どこからどんな音が聞こえてくるのか、子どもたちが探究したい気持ちの赴くままに活動を進めていきます。

また、絵本の物語に音楽を付けてみるとどんな世界が広がっていくのでしょうか。子どもたちは絵本の物語のどこに注目をして、どんな音を付けていくのか…子どもたちの想像力を掻き立てながら、音を付けることで広がっていく絵本の世界を体感していきたいと思います。

探究活動の様子：園内、園外での「音探し」の活動に夢中になっていた子どもたち。調理室の前では、「ジュウジュウっていう音が聞こえる」「何かを切っている音がするよ」といつも何気なく聞いている音をよく聞いてみると、誰かが何かをしている音だということに気づき、その音を聞いてどう感じるのか…例えば、フライパンで何かを焼く音が聞こえてくるとお腹が空いてくるね…といったかんじで探究活動を深めることができました。

おんがくの講師とは、絵本の物語に音を付けることを楽しみました。おんがくの講師と話し合いをしながら活動を深めていけるように、対面に座って絵本を見ました(読みました)。

- ・クレヨンたちが嬉しい気持ちや楽しい気持ちのときはなんだかルンルンするような明るい音楽
- ・くろくんが悲しんでいる場面では静かな音楽
- ・クレヨンたちが揉めているときには激しい音楽

と感情に伴った音楽が合うことに気が付きました。怒っている音はどんな感じかな?「うるさい」「激しい」…悲しい音は?「ゆっくり」「静か」…など、どんな感情にどんな音(音楽)が当てはまるのか意見を出し合い探究を深めました。みんなで見つけた感情の音を活かして、絵本「くれよんのくろくん」「ブレーメンの音楽隊」に自分たちでみのまわりのものや楽器を使って、音をつけて楽しみました。「楽しいときはカスタネットをリズムよく叩くのはどうかな?」「怒っているから、タンバリンを強く叩いてみる」とそれぞれの場面にはどんな音が合うのかを 3 人ずつくらいの小グループに分かれて、色々な楽器を試して音探しをしました。

また、絵本を色々読んでいくうちに、絵本の中に出てくる「音」にも気が付き、「オノマトペ」という言葉ということを知ると、「オノマトペ」探しを楽しんでいました。絵本に出てくる「オノマトペ」探しでは、「はさみを使うときに「ちょきちょき」って聞こえるよ! だから、カニもちょきちょきなのかな!」「蜂の「ぶんぶん」って音は掃除機の音に似てるね!」「いそいでいそいで。も似てるな…」と 2 回繰り返すことの多いオノマトペの特徴にも着目して探究する姿がありました。

絵本に音を付けていくことで、新しい絵本の読み方を見つけ、みんなで探究活動を楽しむことができました。

ふりかえり(保育士の気づき)：音探しの活動では、子どもたちが自分たちで意見を出し合い、見つけた音を教え合っていく姿があったので、「この音を聞いてどう思う?」「この音ってどんな気持ちにさせるかな?」などと、子どもたちがもう一歩活動が進めるような言葉がけをすることで、子どもたちの探究活動がより深まっていきました。絵本の中に音をつける活動では、子どもたちが色々な音と触れ合うことができるように園にある楽器を用意したり、室内の中の道具を使用して音を出すことを提案したりすることで、様々な音に触れ合うことができ、この音はこんな感じ(感情)に聞こえるね!などと、子どもたち自身で絵本のなかに入り込んでいく様子が見られたのはよかったです。絵本を読み進めていくなかで、オノマトペに気が付き、探究していくのかなで、子どもたちが発見するオノマトペが多くあり、驚きました。また、オノマトペに似ている言葉(繰り返す言葉)などを見つけ出し、造語として楽しんでいる様子もあり、子どもたちの成長していく過程(発見と進歩の過程)にも圧倒されました。一つ一つの発見を子どもたちと共に楽しみ、成長を見守ることができました。



【5 歳児実施分】

問いを考える：音楽や様々な音を聴いて、どんな風に聞こえるか(悲しい、楽しいなど)を探究していくことから始まり、音から湧き出てくるイメージを持ちながら、自分たちのまわりにある音を探していきます。どこからどんな音が聞こえてくるのか、子どもたちが探究したい気持ちの赴くままに活動を進めていきます。

また、絵本の物語に音楽を付けてみるとどんな世界が広がっていくのでしょうか。子どもたちは絵本の物語のどこに注目をして、どんな音を付けていくのか…子どもたちの想像力を掻き立てながら、音を付けることで広がっていく絵本の世界を体感していきたいと思います。

探究活動の様子：「どんな音が聞こえてくるかな？」まずは、おんがく講師が奏でる音を聞いて、子どもたちがどう感じたか、どう聞こえたのかを絵に描いて表現してみました。「水の音が聞こえてきたね」「ピアノの音が聞こえたからピアノを描こう」…と二つのグループに分かれて少人数で絵を描く活動を行うことで、友だちの意見に耳を傾けながら、それぞれが感じ取った絵を書いて楽しんでいました。

部屋の中での音探しでは、自分たちの身体を使って音が出ることを最初に発見し、「足をパタパタさせると床から音が出るよ」と言った感じで、様々な動きをしてい身体から出る音を沢山探して楽しんでいました。何かをすると(動作が伴うと)音が出るという現象に気づき、「紙を丸めるとくしゃって音がしたよ」「水道をひねるとジャーと水が流れる音がするよ」と自分たちで音を作り出して探究を深めていました。

絵本を読んで音をつける探究活動においては、おんがくの講師と一緒に音に注目して絵本を読み進めていくことに夢中になっていた子どもたち。その様子を見て、保育者が様々な楽器(トライアングル、鈴、アゴゴウツド、カルタネット、タンバリン、ミニだいこ)を用意しました。楽器の鳴らし方にも興味深々で、楽器を上手く鳴らせるようになると、「宇宙といったら星だから、鈴を鳴らすのがいいかな」とどんな場面にどんな楽器がいいのかをみんなで話し合いながら探究活動をしていました。

楽器で音探しをしているうちに、楽器を演奏したい！という活動に発展し、いつも朝の会や帰りの会で歌っている曲に合わせて、色々な楽器を演奏する子どもたち。一曲終わると違う楽器を選び、また違う楽器で…と何度も繰り返し楽しんでいました。そのなかで、曲のテンポによって楽器が演奏しやすかったり、難しかったりすることに気が付くことができました。「カレンダーマーチ」が一番演奏しやすいと言っていたことから、子どもたちの発見を垣間見ることができます。

音を付けることで絵本の世界が広がり、また、楽器で音を奏でる楽しさから、歌と楽器を合わせることの楽しさを見つけることができ、子どもたちの世界がグッと広がりました。

ふりかえり(保育士の気づき)：全体的な活動を通して、子どもたちが【自ら発見し、教え合い、学びを共有し、お互いの学びが深まる】という流れができていた印象がありました。「音を探してみよう」「どんな風に聞こえる?」「どんな音がいいかな?」等と最初に問いかけをするだけ(時に楽器を用意するなどの環境を整えることも必要なきもありました)で、子どもたちがどんどんと探究活動に取り組んでいく姿に驚きました。正解のない活動なので、子どもたちそれぞれが興味のある音を追求したり、楽器を満足するまで鳴らしてみたり…とのびのびと活動できたのがよかったです。

今回の探究活動を通して、「こんなふうにしてみたらどうかな?」と自分の意見を友だちに伝える力が伸びたように感じます。小学校に進学した際に、自分の意見を提案できる力が備わっていることは彼らの大きな自信につながったと思います。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都町田市木曽西 3-18-2
園名	アスク木曽西保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

～ボールって何？～子どもたちが大好きなボール遊びで使用しているボールについて体操講師とともに、ボールの形、ボールの投げ方、遊び方など様々な角度から子どもたちに問いを与えていく。

<テーマの設定理由>

ボールとひとことで言っても、様々な大きさや形がある。アスク木曽西保育園は広い園庭があるので、広い園庭活かした探究活動を進めていきたいと思いました。ボールを収納する環境も整っているのも、様々なボールやボール遊びができるように環境を整え、ボールに関する探究活動をしていこうと思い、このテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

11 月から3月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し、身体の動かし方について子どもたちの前で実際にどうやってボールを扱うのか実演(扱い方の指導)をしたり、子どもたちがどうしてかな？と考えられるような探究心が芽生えるような言葉かけ(助言)をもらって進めていきました。

また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていき、子どもたちの探究心に沿っていきました。

11月:ボールってどんなもの？

12 月:ボールを転がす

1 月:ボールを投げる

2 月 3 月:色々なボールで遊んでみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・新聞紙
- ・ラインパウダー(園庭で活動する際)
- ・サッカーボール
- ・ソフトラグビーボール
- ・ラグビーボール
- ・パタパタパネルゲーム(ボールゲーム)
- ・ビックサッカーボール
- ・小さいボール
- ・普通サイズの柔らかいボール
- ・サッカーゴール
- ・玉入れのカゴ、カゴ

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：ボールってどんなもの？という問いかけにより、子どもたちがボールについて見つめ直していくことからスタートしました。ボールを使ってどういう動きがあるのかを探究していくなかで、みんなで体を使って（ボールを使って）活動をしていくことで、より具体的に「こうやったらどうなるのだろう」「こうしてみたらどうだろう」と試しながら（実験しながら）探究していけるようにしていきます。

「ボールを投げるとき」「ボールを転がすとき」「ボールを蹴るとき」どんな体の使い方をするとボールがより遠くにいくのか、どうボールが動くのかをみんなで実際に体を動かしていくことで、子どもたちが実際に体験を通して、体の使い方やボール遊び（ボールを使って競技）を身に付けていけるように活動を促していきます。

探究活動の様子：体操講師とともに、ボールってなんだろう？という活動から始まりました。まずは、自分自身が思いつく「ボール」を新聞紙で作り、新聞紙でボールの形に成形するところから、「おせんべいみたいになっちゃった」「まほうのボールができたよ」と子どもたちの世界が広がっていました。「ボールを投げてみよう」との問いかけには真上に投げたり、壁に向かって投げたり…と保育者が何も指示を出さなくても、自然と投げるスペースと新聞紙を成形するスペースとに分かれ、お互いの邪魔にならるようにしていたのには驚きでした。

大きいボールを使って「投げる」「蹴る」「転がす」を楽しむなかで、「転がす」という動作が一番楽しいと夢中になった子どもたち。ボール「転がし競争」「転がしドッチボール」を楽しんでいくなかで、「もっとボールを強く押して！」「ねらって！」などと上手にボールをコントロール出来ている子がアドバイスをする場面もありました。小さいボールを使って「玉入れ」を楽しむ場面でも、「どうやったら玉入れに入るかな？」という問いかけに、「やさしく投げるのがいいよ」「こうするんだよ」と友だちに教え、友だちができるようになって一緒に喜ぶ姿がありました。

サッカーボール、ソフトラグビーボール、ラグビーボールとボールを変えて活動を進めていくなかで、「どうやったら遠くに投げられるのかな」という問いかけを体操講師にアドバイスをもらうことで解決していく場面もありました。ラグビーボールの投げ方では、「足を大きく開いて片足を前に出そう」というアドバイスのもと実際に投げしてみるとまっすぐ前にボールを投げられるようになってきて、そのポーズに力が入り、「かめはめ波！！」とのかけ声が…かめはめ波！と言うと遠くに投げられるよと子どもたちは大いに盛り上がっていました。

ふりかえり(保育士の気づき)：新聞紙でボールを作って遊んだり、色々なボールで活動したりする場面においても、子どもたち自身で考えて実践する姿が見られたので、「〇〇したほうがいいよ」などと子どもたちの行動を体操講師や保育者が先導するような声掛けをしないように気を付けました。子どもたち自身に任せたことがよかったのか、自分たちで考えながら探究活動を進めることができました。

ボールの扱いに慣れるまでは、ボールを使ったゲーム（競争）をするのではなく、一人一人が自分のペースで楽しめるように順番に一人一人、ペアごとなどに実施するなど、急かすことや上手下手を子どもたちが意識しないように活動時間をたっぷりと設けたことで、子どもたち一人ひとりがどうやったら上手く投げられるのかなと体の使い方に向き合うことができていた。

活動をしていくなかで、子どもたち同士、友だちを「がんばれー」「じょうずだね」などと応援したり、褒めたりする姿が見られ、その思いやりの気持ちに気づき、保育者から友だちを思いやる気持ちが素敵だと声をかけると、そのこともきっかけに、活動のなかで、お友だちと一緒に競争をする場面においても、ペアになって一緒に活動する場面においても友だちを褒めたり、応援したりと友だちを思いやる姿が多く見られるようになりました。ボールを投げること（体の動かし方）を通して、友だちの存在、友だちを思いやる気持ちも同時に育むことができた探究活動となりました。



【4 歳児実施分】

問いを考える：ボールってどんなもの？という問いかけにより、子どもたちがボールについて見つめ直していくことからスタートしました。ボールを使ってどういう動きがあるのかを探求していくなかで、みんなで体を使って（ボールを使って）活動をしていくことで、より具体的に「こうやったらどうなるのだろう」「こうしてみたらどうだろう」と試しながら（実験しながら）探究していけるようにしていきます。

「ボールを投げるとき」「ボールを転がすとき」「ボールを蹴るとき」どんな体の使い方をするとボールがより遠くにいくのか、どうボールが動くのかをみんなで実際に体を動かしていくことで、子どもたちが実際に体験を通して、体の使い方やボール遊び（ボールを使って競技）を身に付けていけるように活動を促していきます。

探究活動の様子：新聞紙でボールを作って遊ぶ活動では、「大きめに丸めたらロボットボールになった」「ばくだんゲームができそうだね」などと自分たちの世界観を広げながら活動が進んでいきました。ボールを使用して「蹴る・投げる・取る」の動きがあるゲームを考えていきました。どうやって遊ぶ？何人で遊ぶ？勝ち負けの勝負があるものにする？ということを含めてみんなで話し合いながら（子どもたちが出した意見を保育者が時々まとめながら）ゲームを考えました。園庭でゲームを進めていくと、砂や風でボールが飛んでいってしまったり、大きいボールだと投げにくかったり（投げるのが難しかったり）するので、その都度遊びのルールを変えていくことで、より楽しいゲームへと進化していきました。

ボールを「投げる」ことに探究した活動では、小さいボールを紙コップに当てるという分かりやすいルールのもと、どうやって投げたら紙コップに当たるのか、上からボールを投げたり、下からボールを投げたりして、投げ方を自分たちで考え、工夫している姿がありました。体操の講師と一緒に大中小のボールを使って、それぞれの投げやすい投げ方を実践しながら試行錯誤取り組んでいる姿が印象的でした。園庭の広い空間で活動していると、高く投げたり、友だちとどこまで投げたりできるかを競っている姿が多く見られたので、どう投げたら高く投げられるのか、遠くへ投げられるのかということをやとよりじっくりと探究している子どもたち。

高く投げるためには両手でボールを持つといい、しゃがんでジャンプしたら、より高くに投げられる…遠くへ投げるためには、ボールを持つ手は後ろいっぱいひく、思い切りに投げるという結果を見つけ、みんなで共有して実践して楽しんでいました。

また、ラグビーボールを使った活動では、ラグビーボールを転がす遊びを楽しみました。ラグビーボールの形やまっすぐ転がらないことをとても不思議がっているなか、体操の講師から体を使った投げ方（転がし方）を教えてください、「転がらないよ～！飛んじゃうよ～！」と言いながらボールの投げ方を探究して楽しんでいました。

ふりかえり（保育士の気づき）：自分たちでボールの遊びを考える際に、お気に入りの友だちと一緒にやりたがる子がいたので、みんなで考えていくことを提案して説得していく場面がありました。探究活動を進めていくなかで、自分の想いを大切にしながら活動に参加することを尊重していくと同時に、相手の気持ちやまわりのお友だちの状況も理解していくことも感じ取っていけるように活動をサポートしていく必要がありました。「〇〇はダメ」と禁止にしていくのではなく、相手がどう感じ取るのかを考える時間や声掛けができたのはよかったと思います。

また、探究活動を繰り返していくなかで、どういうふうにボールを扱えばいいのかみんなで話し合ったり、ペアになって話し合ったり…話し合うことを活動にいれながら活動を進めていくことで、相手の意見を取り入れながら、自分の気持ちを伝えていくことも上手になってきました。子どもたちの輪の中で多くを口にすることなく、子どもたち同士で解決できるように見守っていくなかで、一人一人が楽しめる探究活動を行うことができました。



【5 歳児実施分】

問いを考える：ボールってどんなもの？という問いかけにより、子どもたちがボールについて見つめ直していくことからスタートしました。ボールを使ってどういう動きがあるのかを探究していくなかで、みんなで体を使って(ボールを使って)活動をしていくことで、より具体的に「こうやったらどうなるのだろう」「こうしてみたらどうだろう」と試しながら(実験しながら)探究していけるようにしていきます。

「ボールを投げるとき」「ボールを転がすとき」「ボールを蹴るとき」どんな体の使い方をするとボールがより遠くにいくのか、どうボールが動くのかをみんなで実際に体を動かしていくことで、子どもたちが実際に体験を通して、体の使い方やボール遊び(ボールを使って競技)を身に付けていけるように活動を促していきます。

探究活動の様子：ボールってどんな形？という問いかけに、具体的に「丸、たまご、ピザ…」などポンポンと連想していた子どもたち。自分たちで丸めて作った新聞紙のボールで「投げる」「転がす」「蹴る」の遊び方を見つけ、それぞれチーム(3つのチーム)に分かれてゲームを考えました。それぞれのチームが考えた遊びを披露する場面では、「ボールを足で操れるよ」「ボールを車みたいに回せるよ」と独自のルールをそれぞれが詳しく説明してくれました。

園庭で考えた遊びを楽しんだ際は、ダイナミックに遊ぶことができたのと同時に、ボールの大きさや形、遊び方、投げた方によって体の使い方が違うことに気づき、どの遊び方が好きかどうかで話が盛り上がっていた子どもたち。難易度をあげるために自分たちで工夫したり、どんなコツがあれば強くなれる(上手くなれる)かを話し合ったりする姿もありました。投げるときは「的をよく狙うのがいいね」、蹴るときは「真ん中を狙って蹴らないとね」など自分たちで考えた遊びを自分たちで探究していく活動を楽しんでいました。

体操の講師とは、大きさの違うボール(大中小)の投げ方を探究しました。両手？片手？で投げるほうがいいのか？などみんなで試しながら、投げたり蹴ったりするなかで、手は右利きだけど、左足のほうが蹴りやすいということに気づき、みんなで不思議がる場面もありました。園庭でも、大きさの違うボールを蹴ったり投げたりして比べてみましたが、園庭のほうがダイナミックに動いていました。蹴ったり投げたり…と友だちとラリーを楽しもう！と声をかけると、それまでおもしろい蹴っていたり投げていたボールを友だちが受け取りやすいように投げたり、蹴ったりする姿が見られました。

ふりかえり(保育士の気づき)：自分たちで作った新聞紙ボールで遊ぶ際、テープを使いたいなどリクエストに応じて、子どもたちが作りたいもの(考えているもの)をカタチにできるように環境を整えることができたのはよかったです。

また、それぞれの活動のなかで、自分たちのゲームで遊んだあとに、感想を言い合う時間を作ることで、「ボールを早く投げるには、腕を思いっきり後ろにやるんだよ」などとアドバイスをし合う場面がありました。

しかし、探究活動を進めていくなかで、体操講師と一緒に、ボールを投げることや蹴ることを実践していくよりも、このボールをどうやって遊んでいくのが面白いのか自分たちで探究して活動していくほうが夢中になって取り組んでいく姿が見られました。

そんな子どもたちの様子を汲み取り、後半では、体操講師が子どもたちにボールの蹴り方や投げ方をアドバイスすることで、子どもたちが自由にボール遊びの探究(どういうボール遊びが楽しいか、自分たちが考えたボール遊びが特に楽しそうでした)を楽しむことができました。

